

短篇・文化・記録映画特集

これまでわが国では一般的な傾向として、映画を観る人たちの間に、映画と言えば長篇劇映画を意味するものとして長篇劇映画のみに重視し、短篇・文化・記録映画を軽視する嫌が見られないでもありませんでした。しかし、短篇劇映画には「珠玉の短篇」という言葉にみられるように短篇としての独特の良さがあり、文化・記録映画には文化史的にみて興味深い題材が映像表現されているばかりでなく、社会的にも貴重な映像が数多く含まれていて、長篇劇映画にはみられない別のすぐれた価値があるといえます。

フィルムセンターでは、これまでに作られてきた数多くの短篇・文化・記録映画などの中から、優れた価値を有する作品を選びだし、それぞれのテーマに従って1時間半前後の番組を編成して、原則として毎月第一土曜日の午後1時から《短篇・文化・記録映画特集》番組を上映することにいたしました。単に短篇・文化・記録映画愛好家の方々のみならず、広く一般の映画観賞者の皆さんの御利用をお勧めいたします。

1981年3月 フィルムセンター

★先着順にて定員239名に達し次第入館を締め切ります。開館は12時30分。他の特集上映とは全館入れ替え制になります。

一般 250円・学生 140円・小人 100円

4月4日(土) 午後1時開映

—— 川本喜八郎選集 ——

鬼

川本喜八郎1972年作品

製作・脚本・演出・人形アニメ＝川本喜八郎 原作＝今昔物語 美術＝壬生露彦、中川涼 撮影＝吉岡謙、田村実 編集＝園高子 作曲・演奏＝三味線＝鶴沢清治 尺八＝山口五郎 カラー 8分

〈かいせつ〉

夜、鹿狩りに出た狐師兄弟が不吉な事件に遭い、掃宅すると病床の老母が般若に変身しているという幻想的な恐怖譚で、文楽の人形とその動きの様式を活かした格調高い作品となった。アヌシーやメルボルン映画祭で入賞の他、大藤賞を受賞。

詩人の生涯

川本喜八郎1974年作品

製作・演出＝川本喜八郎 原作＝安部公房 美術＝小前隆、徳山正美 アニメ＝川本喜八郎、見末豊、石川隆男 撮影＝田村実 編集＝相沢尚子 作曲＝湯浅譲二 演奏＝高橋アキ、山口保宣 カラー 20分

〈かいせつ〉

安部公房が昭和26年《文芸》に発表した同名短篇小説のアニメ化。毛糸を紡ぎ続ける老婆が糸になり、ジャケツに編み上げられる。凍てつく冬に、ジャケツもない貧しい人々の願望が雪の結晶となって降り落ちるといった内容。詩情豊かな寓話を美しく描いており、毎日映画コンクール大藤賞を受けた。

道成寺

川本喜八郎1976年作品

製作・脚本・演出＝川本喜八郎 美術＝壬生露彦、中川涼 撮影＝田村実 編集＝相沢尚子 人形＝川本喜八郎、若佐ひろみ、高橋佳代子 人形アニメ＝川本喜八郎、尾崎良、峰岸裕和、大向とき子 音楽＝松村植三 カラー 19分

〈かいせつ〉

安珍清姫の悲しい愛と怨念の物語として知られる《道成寺》を迫力ある人形アニメで描いたもの。'77年度アヌシー国際映画祭でエミール・レイノー賞を受賞した。また'76年度キネマ旬報ベスト・テン第2位。

火宅

川本プロ1979年作品

脚本・演出＝川本喜八郎 美術＝小前隆、徳山正美、原口智生 撮影＝田村実 背景・原画＝壬生露彦 音楽＝武満徹 人形＝川本喜八郎、榎坂かほる、アニメーション＝峰岸裕和、大向とき子、宮沢みきお、吉田悟 語り＝観世静夫 カラー 19分

〈かいせつ〉

《道成寺》と同じ系列の作品で、小竹田男(さだのおのこ)と血沼丈夫(ちぬのますらお)の2人の男に恋慕された菟名日処女(うないおとめ)が地獄に墮ちて火の責苦から逃れられぬという悲しい物語を、里娘が通りすがりの僧に語るという能《求塚》のアニメ化。

5月2日(土) 午後1時開映

—— 松本俊夫選集 ——

西陣

京都記録映画をみる会＝「西陣」製作実行委員会1961年作品

製作＝浅井栄一 脚本＝関根弘、松本俊夫 演出＝松本俊夫 撮影＝宮島義勇 照明＝藤來敦義 録音＝片山幹男、甲藤勇 編集＝宮森みゆり、守随房子 作曲＝三善晃 能舞＝観世栄夫 朗読＝日下武史 白黒 27分

〈かいせつ〉

映画製作と映像理論の両面で、一貫して前衛的な活動を続ける松本俊夫(1932年生まれ)が、古い織物の町京都市西陣へカメラを持ち込み、西陣織りの様子やきびしい職人の求人難、西陣の古い伝統や保守的な風土などを、前衛的な手法を駆使しながら描いた作品。映像を説明しない詩的なナレーションや、録音編集の操作による言葉のカリカチュアなどが印象的であり、宮島義勇の撮影が精彩を放っている。'62年ヴェネツィア国際記録映画祭サンマルコ銀獅子賞(最高賞)受賞。

石の詩

東京テレビ映画社1963年作品

製作＝岩部成仁 構成＝松本俊夫 写真＝アーネスト・サトウ 言葉＝流政之 音楽＝秋山邦晴 音響＝奥山重之助 白黒 30分

〈かいせつ〉

ドキュメンタリーあるいは映画そのものの常識を超え、動かない《石》をモチーフに選び、動かないスタイル写真をモニターで見て、ズームやパンを使って映画的に動きを作り出す方法を試みた映画詩とも呼ぶべき画期的な作品で、同じくスタイルを積み重ねたクリス・マルケルの「ラ・ジュテ」('63)に先立つものとしてサドウールらの激賞を受けている。また「色即是空」「アートマン」(共に'75)を始めとするその後の松本の数多く実験映画の原点ともなった作品である。'64年ツール国際短篇映画祭入選。

母たち

電通＝藤プロダクション1967年作品

企画＝プリマム 製作＝工藤充 監督＝松本俊夫 撮影＝鈴木達夫 詩＝寺山修司 声＝岸田今日子 音楽＝湯浅譲二 録音＝片山幹男 カラー 38分

〈かいせつ〉

アメリカ、フランス、東南アジア、アフリカなど世界各地にロケして、異なる文化背景の底にある母親のイメージの共通項を探し求めたもので、《母親は街、子供しか知らない……》というフレーズが連続する寺山修司の詩と、各様の母子の姿がポエティックな感動を与える。歌う黒人の母親、幸せそうなフランス中流家庭の母親、動かなくなった子供を抱いて泣くヴェトナムの母親、子供を洗うアフリカの母親がそれぞれ印象的で、難解だという発表当時の批評は、現在からすれば珍腐ですらある。'67年ヴェネツィア国際記録映画祭サンマルコ金獅子賞(グランプリ)受賞。

6月6日(土) 午後1時開映

—— 赤佐政治選集 ——

日本の民家

英映画社1962年作品

企画＝日本損害保険協会 製作＝高橋銀三郎 脚本・監督＝赤佐政治 撮影＝千石秀夫ほか 音楽＝清水脩 カラー・ワイド 60分

〈かいせつ〉

細長い国土に、様々な気候、風土を持つわが国が、それぞれの地方で長年わたって工夫を凝らしてきた民家の外観や内部構造を、その地の美しい風景や農作業の様子を織り込みながら解説した作品。映画は南から北へ、鹿児島県の二棟造り、佐賀のくど造り、鳥根の大社造り、兵庫の入母屋造り、奈良の切妻造り、徳島の寄棟造り、岐阜の合掌造り、山梨の破風造り、群馬の切屋根造り、岩手の曲り屋造り、新潟・山形・秋田の中門造り等を、順を追って、説明している。四季を通じて全国を撮影した労作であると同時に、豊かなアングル、端正なカットニングに支えられた、極めて正統的な記録映画であり、また、工業化の著しく進んだ現在ではなつかしく、かつ貴重な家族主義的色彩の強い農作業の在りさまが見られるのも興味深い。ひとつの地方の建築様式と他の地方のそれとの間に学術的検証に裏づけられた有機的関連が不足しているとの批判もあるが、映画全体の様式の統一感が、それらを救っていると言えよう。キネ旬ベスト・テン第5位。

石川の四季

日本シネセル1964年作品

企画＝石川崇 製作＝静永純一 脚本・演出＝赤佐政治 撮影＝伊藤三千男 録音＝田中義造 現地録音＝安部恒雄 製作主任＝高木邦治 音楽＝清水脩 解説＝吉田邦子 カラー・ワイド 39分

〈かいせつ〉

昨年(1980)7月15日他界した記録映画の名匠、赤佐政治(1915年生まれ)が、石川県から依頼を受けて製作した、同県の紹介観光映画である。

加賀と能登からなる石川県は、古寺、田跡が多く、また茶の湯、生花や輪島塗りに代表される伝統工芸が非常に発達した地域であり、そこに住む人々の間にも独特な習俗や強い信仰が残っており、一方では、北に日本海、能登半島を、南に白山を控えており、その四季を通じた折り折りの美しい風景は、大きな観光資源となっている。

映画は、白山などを紹介するのに多くの航空撮影を使い、日本海での漁を説明するのに水中撮影を使い、また正月の出初式にしてもはしごの高さによって撮影するなど、豊富なアングルによって石川県を立体的に紹介しているのが特徴であり、画像などを見せる時のフィルムなどは赤佐のよく使うカメラ・ワークと言えるかも知れない。航空撮影は、彼の代表作「富士」(1958)ですでに大規模な使用があるのでお手のものといったところ。祭りや漁の描写が活力に溢れているのが印象的。

短篇・文化・記録映画特集

これまでわが国では一般的な傾向として、映画を観る人たちの間に、映画と言えば長篇劇映画を意味するものとして長篇劇映画のみを重視し、短篇・文化・記録映画を軽視する嫌が見られないでもありませんでした。

しかし、短篇劇映画には〈珠玉の短篇〉という言葉にみられるように短篇としての独特の良さがあり、文化・記録映画には文化史的にみて興味深い題材が映像表現されているばかりでなく、社会的にも貴重な映像が数多く含まれていて、長篇劇映画にはみられない別のすぐれた価値があるといえます。

フィルムセンターでは、これまでに作られてきた数多くの短篇・文化・記録映画などの中から、優れた価値を有する作品を選びだし、それぞれのテーマに従って1時間半前後の番組を編成して、原則として毎月第一土曜日の午後4時から《短篇・文化・記録映画特集》番組を上映することにいたしました。単に短篇・文化・記録映画愛好家の方々のみならず、広く一般の映画観覧者の皆さんの御利用をお勧めいたします。1981年9月 フィルムセンター

★土曜特集(午後1時30分開映)の上映が終了し、全館入れ替えの後に、出札を開始し、午後4時より開映致します

★先着順にて定員239名に達し次第入館を締め切ります。

一般 250円・学生 140円・小人 100円

10月3日(土) 午後4時開映

— 外国短篇アニメーション選集 —

猫とネズミ

Myszka i Kotek

ポーランド：国立動画映画1958年作品
監督＝ヴワディスワフ・ネフレバツキ
脚本＝レシェク・ロレク 作画＝アダム・ヤシニェスキ 撮影＝ジスワフ・ポズナニェスキ 音楽＝タデウシュ・カニェスキ カラー 9分
〈かいせつ〉

ネコとネズミの闘いを卓抜なアイディアと動画で描いたもの。本邦初公開のポーランド・アニメ。

夢の古代旅行

The Encounter in Dream

ユーゴ：国立映画1957年作品

監督＝ニコラ・コステラック カラー 10分

〈かいせつ〉
近代科学の世界に育った小年ベンコが一足飛びに石器時代の世界へ……。

銀行ギャング

A Concert for a Machingun

ユーゴ：国立映画1959年作品

監督＝デュザン・ヴコチッチ 作画＝ズヴォミニール・ロンチャリッチ カラー 15分

〈かいせつ〉
現実音を楽音で表現し、セリフを奇妙な母音に置き換えるというアイディアで、人間の飽くなき金銭欲を描いたもの。

カウボーイ・ジミー

Cowboy Jimmy

ユーゴ：国立映画1957年作品

監督＝デュザン・ヴコチッチ カラー 14分

〈かいせつ〉
人気で作り上げられた英雄が、現実に引き降ろされ馬脚を現わす姿を描く。

小さなウェスタン

The Little Western

ポーランド：ワルシャワ動画1961年作品
監督・脚本・作画・撮影・編集＝ヴィトルド・ギェルシュ 音楽＝イェジー・マトシキェヴィッチ カラー 6分
〈かいせつ〉

セルロイドの透明な板に絵具を塗りつけたものを何枚か重ねて撮影するという手法を使って、ゴールド・ラッシュに沸くアメリカ西部を幻想的に描くもの。

ナフキンの恋

O Czek Iwanie

ポーランド：ワルシャワ動画1962年作品
監督＝ヴィトルド・ギェルシュ、ルドヴィク・ベルスキ 撮影＝ヤン・トカジック 音楽＝ズビグニェフ・ルジンスキー カラー 10分
〈かいせつ〉

カフェのテーブル上で、紙ナフキンと銀紙で作られた人形が、踊り、恋し、嫉妬し、争うというユーモア溢れる短篇。

東京国立近代美術館 フィルムセンター

11月7日(土) 午後4時開映

— 外国美術映画選集 —

ピカソ訪問

Visite à Picasso

仏：アール・エ・シマノ1950年作品
監督・脚本・解説執筆＝ポール・エセル 撮影＝ル・エリセ、P・ギュタン 音楽＝アンドレ・スーリ、ピエール・フロワドビーズ 解説朗読＝ジェラルド・フィリップ 白黒 20分
〈かいせつ〉

ピカソのアトリエと美術館を訪ね、彼の創作過程や人柄、個性を追ったルポルタージュ。1950年ヴェネツィア映画祭短篇記録映画賞受賞。

ユトリロの世界

L'Univers d'Utrillo

仏：フランシネックス＝ガリュス 1954年作品

監督＝ジョルジュ・レニエ 撮影＝ジャン・タシャル 音楽＝モーリス・ジャール 編集＝アンドレ・プロシエ 日本語版解説＝永井智雄 カラー 20分
〈かいせつ〉

生涯をバリの街の絵に捧げるユトリロの晩年の制作ぶりと、酒に触ばれた過去を描き、彼の特異性を伝えている作品。

画聖レンブラント

Rembrandt, Schilder van der Mens

オランダ：国立映画局1956年作品
監督・撮影＝ベルト・ハーンストラ カラー 19分
〈かいせつ〉

17世紀のオランダが生んだフランドル派の巨匠レンブラントの優れた画業を見せながら、彼の波瀾に満ちた生涯を描いた作品。

監督のハーンストラは、「水鏡」(1948)「ガラスはジャズ」(1959)などの名作短篇を作っている。

リュッフェの芸術

Bernard Buffet

仏：シネテル1958年作品

監督＝エティエンヌ・ベリエ 撮影＝ローラン・ポントワゾ 音楽＝イヴ・クラウエ 解説執筆＝ドミニク・ファープル 解説朗読＝レーモン・ジェローム カラー 19分
〈かいせつ〉

1948年に20才の若さで一躍フランス画壇の寵児となったベルナル・リュッフェの創作の秘密を解明しようとしたもの。

ロダンの芸術

L'enfer de Rodin

仏：モンディアル・プロ1958年作品
監督・撮影＝アンリ・アルカン 音楽＝ジャック・ラズリ 編集＝レオニード・アザール 白黒 16分
〈かいせつ〉

名カメラマン、アンリ・アルカンが彫刻家オーギュスト・ロダン畢生の大作、「地獄の門」を中心に、ロダン芸術の真髄を執拗に追求した作品。

中央区京橋3-7-6

☎(561) 0823

地下鉄・京橋駅(銀座線)、宝町駅(都営浅草線)下車

12月5日(土) 午後4時開映

— ロッテ・ライニガー影絵アニメ選集 —

ベツレヘムの星

The Star of Bethlehem

英：プリムローズ・プロ1956年作品
監督＝ロッテ・ライニガー 日本語版語り手＝久我美子 カラー 15分
〈かいせつ〉

1918年から影絵アニメを試み始め、このジャンルでの第一人者となったライニガー女史(1899年6月2日ベルリン生まれ)がナチによってドイツを追われ、イギリスに帰化した後製作した内の一篇で、キリスト降誕物語を描いたもの。

ジャックと豆の木

Jack and the Beanstalk

英：プリムローズ・プロ1956年作品
監督＝ロッテ・ライニガー、動画＝ロッテ・ライニガー、カール・コッホ デザイン＝ヴィヴィアン・ミルロイ 日本語版語り手＝中村メイコ カラー 12分
〈かいせつ〉

少年ジャックが天まで伸びた豆の木を登って兇悪な巨人を退治するという有名な同名童話のアニメ化。

トロイの美女

Helen la belle

英：ファンタジア・プロ1957年作品
製作＝ピーター・ジャンクランド 動画＝ロッテ・ライニガー、カール・コッホ 音楽＝オフェンバック 編曲＝ルード・フィリップ 編集＝ジョン・リチャード・シーリー カラー 14分
〈かいせつ〉

オフェンバックの喜歌劇から取材したギリシャ神話の美女ヘレンをパレエ動画に仕上げたもの。

ハレムの一夜

A Night in a Harem

英：ファンタジア・プロ1958年作品
製作＝ピーター・ジャンクランド 原案・キャラクター・装置＝ロッテ・ライニガー 動画＝ロッテ・ライニガー、カール・コッホ 音楽＝モーツァルト 編曲＝ピーター・ゲルホーン 編集＝フランク・H・W・コクス 白黒 15分
〈かいせつ〉

「トロイの美女」に続いて製作されたもので、モーツァルトの歌劇「後宮よりの逃走」から取材した紙細工のアニメーション。

*
*
ロッテ・ライニガーは戦前ドイツ映画の巨匠マクス・ラインハルトに師事した後、影絵を学び、それをアニメーションの世界へ導入し完成させた不世出の先達であり、1926年に製作され我国でも公開された「アケメッド王子の冒険」は多くのアニメ製作者に多大の影響を与えた。惜しくも1981年6月19日に西ドイツ、チューリッゲンにて世を去ったが、彼女の後を継げる者は少ない。